

高山陣屋管理事務所 作成

平成 28 年度
高山陣屋要覧

目 次

1. 事務所の概要
2. 事務所の沿革
3. 入場者の推移
4. 一般公開後の入場者数の推移
5. 主な行事実績
6. 特別展示について

1. 事務所の概要

(1) 名称

高山陣屋管理事務所

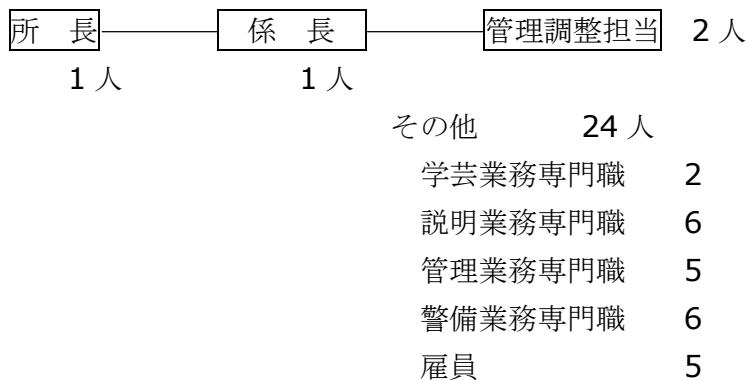
(2) 設置場所

高山陣屋管理事務所 高山市八軒町1-5

(3) 所掌事務

- 1 所内の庶務に関すること。
- 2 経理並びに現金・証券及び物品の出納保管に関すること。
- 3 職員の給与及び旅費に関すること。
- 4 職員の福利厚生に関すること。
- 5 高山陣屋の公開に関すること。
- 6 公開施設の入場料の徴収並びに案内及び解説に関すること。
- 7 公開施設・展示品の維持管理に関すること。

(4) 組織



【定数】

職区分	定数	実人数	備考
事務職員	3人	3人	営繕手
技能職員	1	1	
小計	4人	4人	
非常勤専門職員	19人	19人	
雇員	5	5	
小計	24人	24人	
合計	28人	28人	

2. 事務所の沿革

概要

高山陣屋は、徳川幕府の直轄領（幕領）であった元禄 5 年（西暦 1692 年）から慶応 4 年（西暦 1868 年）までの 177 年間、飛騨の国に派遣された 25 代の代官、郡代が統治政務を行った。全国に 66 か所あったといわれる陣屋の中で、まとまった建物が残されているのは、唯一高山陣屋だけである。

昭和 44 年に飛騨県事務所が移転したことにより、270 年余り続いた役所の幕が閉じられたが、昭和 45 年から復元整備がなされ、平成 8 年 3 月には代官・郡代の役宅が復元されたことにより、江戸幕府の高山陣屋の姿がほぼ蘇った。

(1) 国史跡指定の概要

昭和 4 年 12 月 17 日

3935.06m² 旧史跡名勝天然記念物保存法（飛騨県事務所跡地、県信連跡地購入分）

昭和 54 年 10 月 2 日

53.09m² 文化財保護法（民地購入分）

昭和 55 年 3 月 24 日

4860.25m² 文化財保護法（旧岐阜地方裁判所高山支部跡地、岐阜地方検察庁高山支部跡地、高山市所有陣屋前広場、水路敷）

平成元年 1 月 9 日

2370.65m² 文化財保護法（旧高山市拘置支所跡地購入分）

(2) 高山陣屋復元整備の状況

第 1 次復元整備事業

昭和 45 年 10 月 ～ 昭和 49 年 3 月（4 年間）

総事業費 158,225 千円

事業の概要 (1) 土地購入 1,515m² (2) 御役所復元工事 (3) 御蔵復元工事
(4) 土蔵復元工事 (5) 塀及び排水復元工事
(6) 表御門及び門番所 (7) 庭園復元工事
(8) 蔵番長屋(管理棟)復元工事 (9) 外柵工事
(10) 陣屋広場整備工事 (11) 電気設備・防災設備工事

第 2 次復元整備工事

昭和 54 年 3 月 ～ 昭和 58 年 11 月（5 年間）

総事業費 507,803 千円

事業の概要 (1) 土地購入 3,502m² (2) 御役所復元工事
(3) 書物蔵、供待所及び北門（不浄門）復元工事

- (4) 北、南屋根板塀及び大溝復元工事
- (5) 御役所北側、同中門内構工事及び庭園植栽工事

第3次復元整備工事

平成元年3月 ～ 平成8年3月（7年間）

総事業費 **1,264,044** 千円

- 事業の概要
- (1) 土地購入 2,371m²
 - (2) 発掘調査
 - (3) 蔵番長屋復元工事（平成4年3月完成）
 - (4) 郡代役宅復元工事（平成8年3月完成）
 - (5) 郡代役宅周辺整備工事（塀・ポンプ小屋等）

3. 入場者の推移

高山陣屋は観光都市高山において、入場者が多い代表的施設の一つになっている。長引く不況の影響及び旅行形態の変化等により、平成3年度の576,225人をピークに近年は30万人前後の入場者となっている。

- ・平成20年度 平成19年度に高山がフランスの旅行ガイド「ミシュラン」において「日本で必ず訪れるべき町」として最高位の3つ星にランクされ欧米系の入場者数が増加し、対前年比4.7%増
- ・平成21年度 インフルエンザの発生及び長引く不況により、対前年比6.5%減少
- ・平成22年度 長引く不況により観光客の減少により入場者数も減少、3月11日の東日本大震災によりさらに減少、対前年比6.5%減
- ・平成23年度 東日本大震災の影響を受け、入場者数は大幅に減少、対前年比15.7%減少
- ・平成24年度 入場者数は対前年比3.9%の増加であったが、外国人入場者数は38,743人となり、対前年比95.5%と大きく増加
- ・平成25年度 入場者数は対前年比3.2%の増加で、外国人入場者数は54,460人で、対前年比40.5%の増加となった。
- ・平成26年度 入場者数は対前年比11.5%の増加で、震災以前の水準を超えた。外国人入場者数は77,962人で、対前年比34.3%の増加となった。
- ・平成27年度 入場者数は対前年比16.3%の増加で、6年ぶりに30万人を超えた。外国人入場者数は99,646人で、対前年比27.8%の増加となった。
- ・平成28年度 入場者数は対前年比1.2%の増加で、14年ぶりに35万人を超えた。外国人入場者数は111,501人で、対前年比11.9%の増加となった。

高山陣屋の入場者数は、震災後徐々に増加しており、平成 28 年度は政府が進めるインバウンド政策の順調な推移などによる外国人観光客の増加により 2 年連続で 30 万人を超えた。外国人入場者は 11.9%増加したが、日本人入場者は 3.2%減少した。高山陣屋では、これからも全国及び海外から訪れる多くの方に親しんでいただけるよう、広く公開していく。

4. 一般公開後の入場者数の推移

年度	有 料	無 料	入場者	対 前 年 比			有料入場者	入場者	管理者
	入場者数	入場者数	合 計	有 料	無 料	合 計	累 計	累 計	
	人	人	人	%	%	%	人	人	
昭和 49 年 ～平成 4 年	8,850,698	84,607	8,935,305				8,850,698	8,935,305	～54 高山市 55～ 岐阜県
平成 5 年	443,597	47,492	491,089	—	—	—	9,294,295	9,426,394	岐阜県
平成 6 年	418,243	54,707	472,950	94.3	115.2	96.3	9,712,538	9,899,344	岐阜県
平成 7 年	397,284	59,554	456,838	95.0	108.9	96.6	10,109,822	10,356,182	〃
平成 8 年	384,704	66,273	450,977	96.8	111.3	98.7	10,494,526	10,807,159	〃
平成 9 年	355,971	52,339	408,310	92.5	79.0	90.5	10,850,497	11,215,469	〃
平成 10 年	379,259	57,122	436,381	106.5	109.1	106.9	11,229,756	11,651,850	〃
平成 11 年	347,652	50,363	398,015	91.7	88.2	91.2	11,577,408	12,049,865	〃
平成 12 年	341,064	54,566	395,630	98.1	108.3	99.4	11,918,472	12,445,495	〃
平成 13 年	330,037	51,299	381,336	96.8	94.0	96.4	12,248,509	12,826,831	〃
平成 14 年	343,622	50,266	393,888	104.1	98.0	103.3	12,592,131	13,220,719	〃
平成 15 年	288,020	49,480	337,500	83.8	98.4	85.7	12,880,151	13,558,219	〃
平成 16 年	245,465	42,443	287,908	85.2	85.8	85.3	13,125,616	13,846,127	〃
平成 17 年	262,067	39,571	301,638	106.8	93.2	104.8	13,387,683	14,147,765	〃
平成 18 年	256,733	47,556	304,289	98.0	120.2	100.9	13,644,416	14,452,054	〃
平成 19 年	280,833	43,691	324,524	109.4	91.9	106.6	13,925,249	14,776,578	〃
平成 20 年	294,346	45,369	339,715	104.8	103.8	104.7	14,219,595	15,116,293	〃

平成 21 年	267,479	50,235	317,714	90.9	110.7	93.5	14,487,074	15,434,007	〃
平成 22 年	251,762	43,956	295,718	94.1	87.5	93.1	14,738,836	15,729,725	〃
平成 23 年	202,943	46,399	249,342	80.6	105.6	84.3	14,941,779	15,979,067	〃
平成 24 年	217,077	41,942	259,019	107.0	90.4	103.9	15,158,856	16,238,086	〃
平成 25 年	220,334	46,888	267,222	101.5	111.8	103.2	15,379,190	16,505,308	〃
平成 26 年	244,573	53,510	298,083	111.0	114.1	111.5	15,623,763	16,803,391	〃
平成 27 年	289,613	56,996	346,609	118.4	106.5	116.3	15,913,376	17,150,000	〃
平成 28 年	290,488	60,136	350,624	100.3	105.5	101.1	16,203,864	17,500,624	〃

◎入場料収入 平成 28 年度 122,448,790 円

平成 4 年度(11.1～) ・個人 〃 円 ・団体 (30 名以上) 〃 円 ・中学生以下無料
平成 5 年度～ ・個人 360 円 ・団体 (30 名以上) 310 円 ・ 〃
平成 8 年度～ ・個人 410 円 ・団体 (30 名以上) 360 円 ・高校生以下無料
平成 9 年度～ ・個人 420 円 ・団体 (30 名以上) 370 円 ・ 〃
平成 26 年度～ ・個人 430 円 ・団体 (30 名以上) 380 円 ・ 〃

◎公 開 時 間 3 月から 10 月は 8 時 45 分～17 時 ただし 8 月は 8 時 45 分～18 時
11 月から 2 月は 8 時 45 分～16 時 30 分

◎休 館 日 12 月 29 日、31 日、1 月 1 日

5. 主な行事实績

(1) 1月1日～12月31日「高山陣屋ギャラリー」

高山陣屋の入場者に観賞していただけるよう、また、開かれた高山陣屋を目指して、施設を「高山陣屋ギャラリー」として提供し、「高山陣屋ギャラリー協力会」による飛騨に関わりのある写真、地域の方による絵画やちぎり絵などを月ごとに展示した。

- 1 場 所 高山陣屋 見学者休憩室ほか
- 2 実施者 飛騨水墨画協会ほか9団体

(2) 3月14日～12月4日「高山陣屋語り部ボランティア」

高山陣屋の入場者に、全国で唯一、主要建物が現存する郡代・代官所である「史跡高山陣屋跡」を知っていただけるよう、「高山陣屋語り部ボランティアの会」13人が交代で説明案内を行った。

- 1 ボランティア参加者 延べ253人
- 2 説明案内 469回

(3) 3月19日～11月19日「袴でお出迎え」

高山陣屋の入場者に、江戸時代の風情を感じていただけるよう、職員が当時代官の正装である「袴姿」でお出迎えをした。

- 1 実施日 3月19日、26日、4月2日、14日、15日、16日
5月7日、21日、6月4日、18日
10月1日、9日、10日、15日 11月3日、5日、19日

(4) 5月8日～10月16日「高山陣屋邦楽演奏会」

高山陣屋の入場者に観賞していただけるよう、施設を演奏会場として提供し、「高山陣屋邦楽協力会」による邦楽演奏会を開催した。

- 1 場 所 高山陣屋 御役所大広間
- 2 実施日 毎月第2、第4日曜日実施
- 3 実施者 澤田流岐阜会ほか11団体

(5) 5月25日「史跡高山陣屋保存整備専門家会議」

岐阜県高山陣屋保存専門家会議3名の構成員により、高山陣屋の保存修理や活用について意見交換を行い今後の運営の資料にした。

(6) 5月25日「高山陣屋運営懇話会」

学識経験者等10名の構成員により、高山陣屋の保存修理や活用について意見交換を行い今後の運営の資料にした。

(7) 6月4日～7月2日「高山陣屋おもしろ歴史教室」

「歴史を楽しく、おもしろく勉強しよう」を目標に、くれへぎ（板葺屋根の材料製作）・陣屋ガイドの体験などを通じて、高山陣屋の歴史について学ぶ講座を開催した。

- 1 実施日 6月4日、11日、25日、7月2日
- 2 場所 高山陣屋 ガイダンスルームほか
- 3 参加者 小学4年生から6年生とその保護者 27人

(8) 6月18日、11月27日「ブラ高山 陣屋町高山で街歩き」

絵図史料や古写真などを参照しながら、城下町から再編された「高山陣屋」をブラブラ街歩きして、街角にのこる歴史の痕跡を探索した。

参加者 6月 23人、11月 19人

(9) 8月24日「高山陣屋歴史教室の夕べ」

夜の高山陣屋において、参加者が行灯の灯りのもとで江戸時代の夜を体験、当所研究アドバイザーにより、高山陣屋第20代郡代豊田藤之進の書き残した「飛騨呈書」にみられる江戸時代の「銀絞り」（精錬）について紹介した。

参加者 80人

(10) 9月10日～3月31日「高山陣屋特別展「史跡高山陣屋の近現代史」

本年が飛騨美濃合併140周年であることを記念して、明治以降の高山陣屋を取り巻く様相をたどりつつ、史跡として保存され、整備・公開されるに至った経緯を紹介した。

場所 高山陣屋 9番蔵

(11) 10月16日～11月14日「高山陣屋のイベント等での利用（ひだしんプロジェクトマッピング）」

高山陣屋大広間において、プロジェクトマッピング「飛騨高山の四季」を上映した。

(12) 11月23日「高山陣屋特別展関連企画 座談会「なつかしの高山陣屋を語る」

戦後の高山陣屋（県事務所）をよく知る方をお招きして、当時の状況やエピソードについて語り合う座談会を実施した。貴重な記憶を記録保存して、高山陣屋が辿った歴史の語り継ぎを図った。

参加者 19人

6. 特別展示について

平成 28 年度

「史跡高山陣屋の近現代史」

(飛騨美濃合併 140 周年記念)、冊子作成

本年が飛騨美濃合併 140 周年であることを記念して、明治以降の高山陣屋を取り巻く様相をたどりつつ、史跡として保存され整備・公開されるに至った経緯を紹介しました。

■開催期間：平成 28 年 9 月 10 日（土）～平成 29 年 3 月 31 日（金）

■会場：高山陣屋 9 番蔵（高山市八軒町 1-5）

■開館時間：8 時 45 分～17 時（11 月から 2 月までは、8 時 45 分～16 時 30 分）

■入場料：430 円（高校生以下、無料） ※通常の入場料にて見学可能

■休館日：12 月 29 日・31 日、1 月 1 日

■趣旨：江戸時代に幕府の役所であった高山陣屋は、明治維新後も飛騨の行政の中枢であり続けた。明治 9 年における飛騨・美濃の合併をはさみ、高山県・筑摩県・岐阜県の役所として建物が用いられ、隣接して警察署・裁判所・検察庁・拘置所なども設置された。

今回の特別展では、本年が飛騨美濃合併 140 周年であることを記念して、明治以降の「高山陣屋」をとりまく様相をたどりつつ、史跡として保存され整備・公開されるに至った経緯を紹介する。

■内容(予定)：(1) プロローグ 維新前後をつないだ役人たち

(2) 明治～昭和の建物変遷 -古写真・図面でたどる陣屋周辺-

(3) 「高山陣屋」の再生 -3 次にわたる復元整備事業-

(4) エピローグ 史跡高山陣屋を守り、伝える

平成 29 年度予定

「高山陣屋の「表」と「奥」」

(高山陣屋改築 200 年記念)

■開催期間：平成 29 年 10 月 7 日（土）～平成 30 年 3 月 31 日（土）

■会場：高山陣屋 9 番蔵（高山市八軒町 1-5）

■趣旨：高山陣屋の玄関から役所にかけての主要部分は文化 13 年（1816）に改築されており、平成 28 年でちょうど 200 年が経った。そこで本年は、高山陣屋の建物をテーマとしつつ、間取りや構造といったハード面だけでなく、各部屋がどのように機能していたか、役人たちがどのように利用していたか、というソフト面からも調査研究を図り、江戸時代における高山陣屋の実態解明を進める。

高山陣屋は城や大名屋敷とは異なりますが、幕府の役人が住み込みで執務した役所という点では、武家屋敷に準じた構造や機能を有していたと想定することができる。

一般に、江戸時代の武家の住まいは、当主や家臣の執務空間である「表」と、当主の家族の居住空間である「奥」とに区分して構造を理解することができる。高山陣屋にこの区分を適用することは可能なのか、また建物や部屋の機能を史料から探る、といった視点・方法で検討を図る。

あわせて、高山陣屋を説明案内する現場で紹介されている青海波・真向兎といった建具・装飾や部屋の呼称の由来についても追究する。

また、高山市が認定された日本遺産「飛騨匠の技・こころ 一木とともに、今に引き継ぐ1300年―」の構成文化財となった御蔵（米蔵）についても、その文化財的価値について検証する。

■内容(予定)：(1) プロローグ 高山陣屋の建物 Q&A

- ・青海波
- ・真向兎
- ・畳の縁
- ・嵐山之間／扇之間

(2) 高山陣屋における建物の変遷

享保 10 年 (1725) / 元文 4 年 (1739) / 延享 3 年 (1746)
/ 文化 13 年 (1816)
文政 13 年 (1830)

- ・寛政 (大原騒動後) の行政改革 (組織改編) と建物改築との関係
- ・現存しない建物・部屋 / 移築された建物 (稽古場、陣屋稲荷など)

(3) 図面と史料から探る高山陣屋の「表」と「奥」

- ・代官 (郡代) の居場所を執務日記にみる
- ・各部屋の機能

(4) ここがスゴイ! 高山御蔵

- ・米蔵土蔵として「国内最古 / 最大級」を検証